テクテキスタイル研究会

テクテキスタイル研究会の活動

赤井 智幸 AKAI Tomoyuki
大阪府立産業技術総合研究所

1. 沿革

テクテキスタイル研究会は、我が国の繊維産業における産業資材分野の重要性を鑑みて、1983年3月に設立された産業資材研究会（松本喜代一委員長）がその前身である。2002年6月に石原英昭委員長の下、テクテキスタイル研究会と改称し、新たに発足したものである。したがって、前身の産業資材研究会から通算すると、本年度で発足から25年を数えることとなる。

2005年9月に委員長を引き継いだが、発足以来、一貫した研究会の理念は、会員相互のギブアンドテイクをモットーに、テクテキスタイル分野に関する人脈形成とビジネスチャンスのきっかけの場を提供することであり、この基本理念の下、現在、40名のメンバーで運営されている。

2. 活動状況

テクテキスタイル研究会の主たる活動は、年2、3回程度の研究例会開催と、年1回程度の公開講座の開催であり、前者は見学会や2、3件の話題提供と討論を行う。通常、会員の内の20～25名が参加しており、毎回、見学先との、あるいは参加者相互間での活発な意見交換がなされている。公開講座は、一般公開の講演会であり、外部からの講師を招聘して、学会の会員を主対象に講演、討議の場を提供している。さらに、毎年、年次大会では、テクテキスタイルに関わる特定テーマセッションの設営に協力している。近年の活動状況は次の通りである。

2005.11.2 第10回研究例会 東洋建設鳴尾研究所見学・関連講演

2006.3.10 第11回研究例会（不織布研究会合同研究例会） 講演3件、製品紹介3件

- ・東南アジアにおけるスパンボンド事情（ニッポン高度紙工業）
- ・防護服研究の最新事情（ユニチカ）
- ・製品紹介（ポータブル近赤外水分計、高精度ハイブリッドロール装置、加工機）
- ・消臭繊維の最新動向（ダイワボウプログレス）

2006.7.26 第12回研究例会 講演2件

- ・テクテキスタイルに関する米国の最新情報（ITS Mediaservice）
- ・ナノファイバーエレクトロスピニングユニットの開

発（カトーテック）

2006.9.27 第13回研究例会 ダイキン工業滋賀製作所見学・関連講演

2006.11.30 第14回研究例会 クラレ倉敷研究所見学・関連講演

2007.2.9 公開講座「合繊メーカー いち押しのテクテキスタイル技術」講演6件

- ・次世代型自己調節機能素材「MRTファイバー」（帝人ファイバー）
- ・家電エアフィルターの新規開発商品について（ダイワボウプログレス）
- ・防護資材用途の拡大と課題（東レ・デュボン）
- ・シートベルト、エアバッグ（東洋紡績）
- ・侵食防止シート「セグローバ」（ユニチカファイバー）
- ・ポリアリレート繊維ベクトランの特長と現状ならびに高靱性PVA繊維補強セメント系複合材（クラレ繊維カンパニー）

2007.8.1 第15回研究例会 アシックススポーツ工学研究所見学・関連講演

2007.12.7 公開講座「産学官からの情報発信」講演3件

- ・環境有害物質の規制動向と分析方法（大阪府立産業技術総合研究所）

- ・アクリル繊維の産業資材用途について（三菱レイヨン）
- ・第三の資源：竹の工業利用の可能性（同志社大学）

2008.2.13 第16回研究例会 関西電力電力技術研究所見学・関連講演

3. 今後の展開

日本の繊維産業において、今後、テクテキスタイル分野、すなわち様々な産業用途に使用される繊維資材や繊維複合資材に関わる非衣料分野が一層、重要度を増すことは、論を待たない。テクテキスタイルの用途は、交通・運輸分野、建築分野、土木分野、工業分野、衛生・医療分野、農林・水産分野、環境分野、防護分野、搬送・包装分野、内装分野、産業用被服分野、スポーツ・レジャー分野¹⁾など、きわめて広範囲である。使用される繊維も、汎用繊維からスーパー繊維、あるいは環境対応素材としてのカボック、ケナフ、バンブー繊維など多様である。また、テクテキスタイル分野の商品開発や用途開発・開拓には、特に幅広い知識と技術ノウハウが必要とされる。それらの点で、産・学・官、素材から加工まで、あるいは技術・研究、市場開

図1 講演会

図2 施設見学

拓、商品企画、販売のそれぞれ第一線に携わるメンバーが集う当研究会は、まさに国内外の生きたテクテキスタイル情報の交換の場に成りうると考えている。その更なる発展を図るべく、様々な産業分野（テクテキスタイルにとってのユーザー）との交流、情報交換に今後とも特に注力していきたい。異業種産業とのコラボレーションの入り口となる「見聞」の場を設け、ある産業分野では今、近未来、将来、何が求められているのかを直接、自ら「見る」、「聞く」機会を提供するものである。また、例えば、ナノファイバー等の最先端繊維材料の利用が、今後、急激に加速度を増すと考えられる。一方、不織布のように今なお需要が拡大し続け、用途開発が盛んな汎用材料もある。それら材料の産業利用拡大に向けて、学会内の他の関連研究会との連携も深めて行きたい。公開講座に関しては、好評であった「合繊メーカーいち押しのテクテキスタイル技術」は、開

催時期を選んでシリーズ化ができればと思っている。

さらに、運営に当たっては、冒頭に記した設立以来の研究会の基本理念を踏襲しつつ、加えて「会員相互が公平・対等」に、「自由・闊達」に技術交流できる場にしていきたいと考える次第である。

会員間の密な連携と、学会誌会告等による学会員への催事の迅速な案内により、今後とも会員、学会員に喜んでいただける内容を提供していきたいと思っております。テクテキスタイルに関わる多くの方々の入会、催事への参加をお待ちしております。

参考資料

- 1) 例えば、テクテキスタイル～産業用繊維国際見本市公式サイト, <http://techtextil.messefrankfurt.com/frankfurt/en/>, Messe Frankfurt GmbH, 2008年1月

赤井智幸（あかい ともゆき）

1980年、京都工芸繊維大学繊維学部繊維工学科卒、現在、大阪府立産業技術総合研究所繊維応用系系統括として繊維部門を統括。専門はジオシンセティックス、産業資材。近年は、廃棄物処分場に関連した材料や工法に関する研究・開発に従事。ISO TC221国内専門委員会委員。京都大学博士（工学）。